

## 第3回 夷隅地区地域協議会 次第

日 時 令和5年3月16日（木）  
10時30分から  
場 所 大多喜町中央公民館 研修室

- 1 開 会
- 2 教育委員会挨拶
- 3 報 告  
(1) 第2回夷隅地区地域協議会の概要
- 4 議 事  
(1) 夷隅地区の県立高校の適正規模・適正配置について
  - ・望ましい学校規模について
  - ・地域との連携及び地域からの支援について
  - ・地域連携協働校について  
(2) その他
- 5 報告・連絡
- 6 閉 会

### 【配付資料】

- 資料1 夷隅地区の入学者選抜志願状況、募集学級数の推移、及び中学校卒業  
者数の推移  
資料2 大多喜町教育委員会提供資料  
資料3 地域連携協働校について

- 第2回夷隅地区地域協議会 記録（案）  
第3回出席者名簿  
第3回座席表

## 1 夷隅地区県立高校の過去3年間の入学者選抜志願状況

学 校 名	学 科 名	令和3年度入試		令和4年度入試		令和5年度入試	
		志願者数	倍率	志願者数	倍率	志願者数	倍率
		募集人員		募集人員		募集人員	
大 多 喜	普 通 科	114	0.71	123	0.77	129	0.81
		160		160		160	
大 原	総 合 学 科	106	0.66	76	0.48	110	0.69
		160		160		160	

## 2 夷隅地区県立高校の募集学級数の推移（基礎資料 P5 より）

学校名	学科名	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
大 多 喜	普 通	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
大 原	総合学科	-	6	6	6	6	5	5	4	4	4
	普 通	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岬	普 通	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	園 芸	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
勝浦若潮	総合学科	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地 区 合 計		11	10	10	10	10	9	9	8	8	8

## 3 夷隅地区の公私立中学校卒業生数の推移と見通し（基礎資料 P11 より）

現在の学年	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	5歳
卒業年月	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3
勝 浦	101	97	83	87	71	75	56	82	64	77
い す み	247	253	252	232	253	221	216	206	207	189
大 多 喜	86	81	65	71	70	54	64	69	63	40
御 宿	23	46	29	37	27	35	27	24	32	23
合 計	457	477	429	427	421	385	363	381	366	329

出典：学校基本調査（文部科学省）及び千葉県年齢別町丁目別人口調査（千葉県総合企画部統計課）を基に令和4年3月に教育政策課にて作成

# 第3回 夷隅地区 地域協議会資料

令和5年3月16日  
大多喜町教育委員会

1

## 進路状況及び進路指導等の取組につ いて

### (1) 学校の概要

- ・「至誠純真」「進取向上」「自主協同」を教育目標に掲げ、誠実さ、向上心を兼ね備え、とりまく人々と協力する心を持つ人材を育成する。
- ・文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のアソシエート校（地域魅力型・令和2年～4年の3年間）の指定を受け、これからの社会を力強く生き抜く人材に必要な「課題発見能力」「課題解決能力」「自己表現能力」を身につけるとともに自分たちの地域のことをよく知ったうえで課題や良さを見つけて発信したり、課題解決策を創出するなど、主体的に行動できる人材の育成を目指す。

1

2

(2) 卒業生の進路状況 (全日制普通科)

ア 令和3年3月卒業生 136人 (進路決定者: 130人 (95.6%)、未定者: 6人 (4.4%) )

① 進学 120人(88.2%) ・ ・ 一般受験 21人、指定校推薦 49人、公募推薦16人、  
総合型選抜※1 34人

②就 職 10人( 7.4%) ・ ・

③その他 6人( 4.4%) ・ ・ 浪人 4人

※1 総合型選抜: 面接・小論文、志望動機や学部・学科に対する適性、入学後の意欲などで総合的な人物評価を行って選抜する方法。  
AO入試から名称変更(R2~)。

2

3

イ 進路の特徴

- ・ 一般選抜は前年より増えたが、ほとんどは推薦による進学。99/120人 (82.5%)
- ・ 国公立大学への進学が、ここ数年の中では多かった。5/80人(6.3%)
- ・ 8割以上が進学希望だが、R3年3月卒業生は専門学校進学が例年より少なかった。
- ・ 就職希望者の多くは公務員を目指している。民間企業は不採用となるケースはほぼなく、生徒の希望企業に就職している。

年度	卒業生数 ( )は 入学時の数※2	進路決定者	進学					就職	その他未定 (浪人等)
			計	4年制大学	短期大学	専門学校			
R2	136人(137人)	130人(95.6%)	120人(88.2%)	80人(58.8%)	5人(3.7%)	35人 (25.7%)	10人(7.4%)	6人(4.4%)	
R元	159人(164人)	149人(93.7%)	133人(83.6%)	81人(50.9%)	5人(3.1%)	47人 (29.6%)	16 (10.1%)人	10人(6.3%)	
H30	150人(152人)	143人(95.3%)	132人(88.0%)	83人(55.3%)	9人(6.0%)	40人 (26.7%)	11人(7.3%)	7人(4.7%)	
H29	159人(162人)	145人(91.2%)	131人(82.4%)	74人(46.5%)	14人 (8.8%)	43人 (27.1%)	14 (8.8%)人	14人(8.8%)	

※2 入学時と卒業時の生徒数の差は、留学や転学によるもの。

3

4

### (3) 主な取組

#### ア 進学に関する取組

- ・国公立大受験を目指す生徒等に対応し、毎週火、水、金の3日間に通常より1時間多い7時限授業を実施している。〔1学年は国語総合・数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅰ、2学年は数学B、3学年は古典A〕（1年36名、2年25名、3年20名）
- ・希望する進路実現に向けた学年別進路説明会の実施（年間3回）
- ・資格取得の推進（GTEC※5、英検の実施）
- ・1学年時からインターシップや大学等への体験入学等を積極的に推進し、生徒が自己の人生を見据えた進路選択が出来るよう配慮したきめ細かな進路指導を行っている。

4

5

#### イ 学力向上・授業改善に係る取組

- ・少人数授業（1年国語1クラスを2グループに分ける）、習熟度別授業（1年数学、英語2クラスを3グループに分ける）の実施。
- ・朝読書の実施（毎朝、始業前5分間：全学年）。
- ・早朝、昼休み、放課後を使っての補習を実施。
- ・夏季休業中に1学年は基礎学力、2学年は基礎及び進学、3学年は受験指導を主な目的として「夏期特別講座」（今年度は11講座）を実施している。国語、社会、数学、理科、英語等の各講座は1回2時間で5～7回を開講。その他、進路指導講座として7回実施している。
- ・ICTを活用した授業動画により生徒各自が振り返りを実施している。（1本5分程度）
- ・基礎学力の定着のため、全学年で漢字テストを年8回及び英単語テストを年7回実施している。また、1学年は数学計算力テストを、2・3年は英語（文法や慣用句等）テストを年6回実施している。

5

6

## ウ その他

令和3年6月に「持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダー」としての、人材育成及び生徒により良い学びを提供するための環境づくりとともに地元大多喜町を中心とする夷隅地域の活性化を目指して、連携機関（コンソーシアム）※7を設置している。

### ① 総合的な探究の時間（大高探究）

- ・探究活動に必要な基本的な技法を習得する。
- ・コンソーシアムによる出前授業により、大多喜町の歴史・文化・資源・環境・健康福祉・交通等について理解を深め、共通の興味・関心を持つ生徒でグループをつくり、テーマを設定し、協働して研究を進める。
- ・フィールドワーク等実地調査等を実施して、大多喜町に関する探究活動を行い、発表会を行う。

6

7

### ② 大多喜共創プロジェクト（課外活動）

- ・いすみ鉄道活性化プロジェクト・・・いすみ鉄道でのマンドリンギター部によるマンドリンギター列車の運行、駅舎の掃除
- ・読書活動（読み聞かせ）推進プロジェクト・・・小学校での読み聞かせの実施（読み手）
- ・大多喜町・元気まつり活性化プロジェクト・・・大多喜町2大祭り開催時の補助、町の活性化に向けた研究への参画
- ・インターンシップ・ボランティア推進プロジェクト・・・竹林整備、幼稚園・小中学校との交流

7

8

## 大多喜高校への支援

- ・ 人的支援
- ・ 金銭的支援

8

9

## 人的支援

- ・ 大多喜高校支援推進委員会
- ・ 大多喜高校魅力化コンソーシアム会議
- ・ 大高探究等への講師派遣
- ・ キャリア教育の受け入れ

9

10

## 千葉県立大多喜高等学校支援推進委員会設置要綱

平成28年4月21日  
教育委員会告示第8号

(設置)

第1条 少子化による生徒数の減少により県立高校の再編及び統廃合の検討がされる中、本町に創立され110余年の伝統を持つ千葉県立大多喜高等学校（以下「大多喜高校」という。）の存続に向けた取組を実施するため、千葉県立大多喜高等学校支援推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会の検討事項は、次のとおりとする。

- (1) 大多喜高校支援推進に関する事項
- (2) 大多喜高校生徒の学習支援に関する事項

10

11

## 大多喜高校魅力化コンソーシアム設置要綱

令和3年6月3日

(設置)

第1条 本コンソーシアムの名称は「大多喜高校魅力化コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）」とする。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、大多喜高校が目標とする「持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダー」としての人材育成及び生徒により良い学びを提供するための環境づくりとともに地元大多喜町を中心とする夷隅地域の活性化を目指して、大多喜町、大多喜町教育委員会及び賛同企業、連携大学等の高等教育機関等と大多喜高校が協働体制を構築し、教育活動を展開することを目的とする。

(協働事業)

第3条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。

- (1) 大多喜高校支援推進に関すること
- (2) 地域の活性化に係る取組に関すること

11

12



## 大高探求（令和4年6月16日実施）

所属課	メインテーマ	担当職員	授業概要	使用するもの
教育課	好き！！得意！！を生かせる幼児教育	大多喜町立みつば保育園 松本 まどか	・幼児教育の資格取得にあたって ・保育現場のあれこれ ・大多喜町保育園の様子など	資料が掲示できるもの (黒板、ホワイトボード など)
教育課	学校の先生ってこんな仕事①②	大多喜町立大多喜中学校 鶴岡 利明	大多喜中職員の実態、教職の魅力、なぜ教職はブラックなのか、教員生活を振り返って	大型モニター又はプロジェクター (PC等は持参します)
農林課	有害獣対策の現況について	農政係 桐生 翼	農作物被害状況、町の捕獲頭数、被害対策と課題、捕獲獣の活用等について	資料配布あり
生涯学習課	或る大多喜藩主の一生	社会教育係 小高 春雄	大多喜藩江戸屋敷から大多喜城三ノ丸へと移り住んだ大多喜藩士の日常とはどんなものであったか。	プロジェクター
健康福祉課	シニアが活躍 ～支えあう町「大多喜」～	介護保険係 黒須 直也	大多喜町の高齢者事業について。	配布資料
商工観光課	生まれ変わる大多喜城 ～町の観光拠点として～	観光係 加藤 奈緒樹	観光拠点としての 大多喜城 現状と未来	配布資料のみ

12

13

## キャリア教育の受入れとして

- ▶ 職場体験の受入れ（役場など）
- ▶ 選挙の立会人
- ▶ 教員養成講座

13

14

## 学校外の学修の単位認定について (教員養成に関する取組)

### 1 目的

本校では、毎年10名を超える生徒が将来の進路として、教育関係職を希望し、大学、短大、専門学校へ進学している。このような実態を踏まえ、教育に関心を持ち、将来教員を目指す生徒が、教員としての基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識を育む。

### 2 内容

- (1) 教育系高大連携校による、長期休業中における出前授業や特別講座、大学の講義体験、学生との交流会を行う。
- (2) 近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校等との連携による、教育体験実習、学習支援活動を実施し、教員としての職業意識を育成する。
- (3) 大多喜町と連携し、地域の教育に関する講座を実施する。

3 実施期間 令和4年4月～令和5年3月

4 修得単位数 (令和4年度申請、令和5年度より本格実施) 1単位

5 受講者の選出 4月当初に年間計画を提示し、校内で募集する希望制とする。(学年問わない)

6 協力団体 大多喜町・大多喜町教育委員会・いすみ市教育委員会・勝浦市教育委員会・御宿町教育委員会・長生郡市内各教育委員会・植草学園大学・三育学院大学・千葉工業大学・コンソーシアム関連団体

14

15

### 【講座内容 (年間計画)】

### ◆希望者のみ実施

No	月日	内容	会場	備考
1	5/2 (月)	オリエンテーション (説明会) (4/6～4/22希望調査)	視聴覚室	15:50～ 30分
2	5/23 (月)	教育の魅力について I	視聴覚室	(中間考査最終日) 13:00～ 町教育長 50分
3	6/16 (木)	学校の日常について	教室 (出前講座内)	13:15 (5～6限) から 町中学校長 50分
4	7月 ～8月	教育体験実習・学習支援 (夏季休業期間)	近隣の保育園・幼稚園・ 小学校・中学校 特支学校	2日間 (終日) 行き先については別途希望を とります
※ 5	7/11 (月)・12 (火)	高大連携校による特別授業 (期末考査答案返却期間) (植草学園大学 他)	視聴覚室	(答案返却2・3日目) 13:00～ (2日間) 60分×2講座
6	9/12 (月)	教頭講話&教育実習生講話	視聴覚室	15:50～ 教頭・実習生 50分
7	10月予定	教育体験実習	夷隅特別支援学校	1日 (終日) <b>15</b>

16

No	月日	内 容	会 場	備 考
8	11/17 (木)	先生っていいもんだ (県教職員課主催)	視聴覚室	15:40～ 60分
9	1 2月	教育体験実習・学習支援 (冬季休業期間)	近隣の保育園・幼稚園・ 小学校・中学校 特支学校	1日(終日) 行き先については別途希望を とります
※ 10	12/19 (月)	高大連携校による特別授業 (期末考査答案返却期間) (植草学園大学 他)	視聴覚室	(答案返却最終日) 13:00～ 60分×2講座
11	1/16 (月)	校長講話 (期末考査答案返却期間) 取組状況発表(受講者より)	視聴覚室	校長・受講者 70分
12	3/10 (月)	教育の魅力についてⅡ	視聴覚室	(学年末考査最終日) 13:00 ～町教育長 50分
♦(13)	9月～10月	(小学校読み聞かせ)	(近隣小学校)	10分×3日(30分)

※夏季休業前(全て植草学園大学の先生方)・冬季休業前(1日)の大学連携講義について  
 講義1 教育心理学 金子 功一 講師  
 講義2 身体活動とコミュニケーション 鈴木 瑛貴 講師(オンライン)  
 講義3 特別支援教育入門(障害とは何か) 名古屋 恒彦 教授  
 講義4 価値観と視点を変える 村上 悦子 准教授  
 講義5・6については、現在検討中  
 講義5 教育者・保育者に求められる言葉の力 講義6 教職に就くということ

16

17

## 金銭的支援

大多喜高校支援事業補助金で

- ・スタディサプリ(H26～R1)
- ・英語教師補助(R2～)

17

18

## 大多喜町大多喜高校後援会支援事業補助金交付要綱

平成25年3月29日

告示第22号

(趣旨)

第1条 この要綱は、永年にわたり地域に根差した学校づくりを進める千葉県立大多喜高等学校の教育事業を後援し、その充実及び発展を図るとともに地域文化の向上に寄与することを目的とする千葉県立大多喜高等学校後援会（以下「後援会」という。）に対し、予算の範囲内において、大多喜町補助金等交付規則（昭和55年規則第12号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、補助金を交付することに関し必要な事項を定めるものとする。

(補助対象事業)

第2条 補助金の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

- (1) 教育活動の支援に関する事業
- (2) 部活動の助成に関する事業
- (3) 地域活動の支援に関する事業
- (4) その他町長が必要と認める事業

18

## Ⅱ 県立高校の適正規模・適正配置

### 全日制高校

#### 1 全日制高校の適正規模・適正配置

##### 【これまでの経緯】

本県では、これまでに、中学校卒業生数の減少に対応するため、募集定員の削減や、前プランにおいて3校の統合1組を含む3組の統合を実施するなど、規模や配置の適正化を進めてきました。

しかしながら、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、中学校卒業生数がさらに約6,200人減少することが見込まれており、これは学級数に換算すると約155学級分に相当します。

そこで、『県立高校改革推進プラン』（令和4年3月策定）の【具体計画の方向】において、県立高校の適正規模・適正配置について、

- 多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。
- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。

としました。

## 【今後の対応】

中学校卒業生数の減少に対して、県立高校 121 校を引き続き維持しながら募集定員減で対応するだけで、適正規模を維持することは困難となります。

また、学校の小規模化により、生徒や教職員数が減少し、生徒同士の切磋琢磨の機会確保や、教育課程の柔軟な編成、活力ある教育活動による生徒の多様なニーズへの対応が困難になったり、学校行事や部活動なども制限されたりと、特色ある教育活動の充実に支障をきたすことが考えられます。

そのため、全県的な視野に立ち、引き続き、統合による再編も含め、適正規模・適正配置に努めていく必要があります。

なお、統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて、地域の方々から地域における学校の在り方について意見を伺い、検討を進めていきます。

また、それぞれの学校が長年培ってきた伝統や学びなどの継承や、施設設備の改善・充実による、より効果的な教育環境の提供、地域の資源を生かした教育活動による学校の活性化など、新たな方策も含め、引き続き研究し、検討を終えたものから公表していきます。

### 《都市部について》

都市部では、令和5年度には、全日制において1学年3学級以下の学校が2校、4学級の学校が6校、5学級の学校が5校となります。

適正規模の維持が困難と見込まれる学校を中心に、地域における高校の在り方を検討した上で、活力ある教育活動の維持や学習環境・課外活動の更なる充実を図るため、統合による再編を検討します。

検討にあたっては、地域の実情等を十分に考慮しつつ、統合により、より魅力ある高校となるよう改善を図りつつ、適正規模の維持に努めます。

### 《郡部について》

郡部では、令和5年度には、全日制において1学年3学級の学校が11校となります。

高校の選択肢が限られる中、多様な高校選択の機会や通学の利便性を確保しつつ、地域との連携や協力を得ながら、将来地域の担い手となる人材を育成できるよう、高校の在り方について検討します。

統合にあたっては、適正規模の維持が困難となることが見込まれる学校であっても、ただちに再編の対象とするのではなく、地理的条件や公共交通機関の状況、地域の抱える状況、学科の配置バランス等を踏まえ、「教育を受ける機会の確保」についても配慮し、生徒にとってより良い高校の在り方について検討します。

また、地域によっては、少子高齢化を伴う人口減少の進行により、ますます地域社会が

衰退していくことが懸念されています。そこで、高校生が地域社会の一員として主体的に地域に関わることで、地域社会や地域産業の発展・振興を担う人材の育成につなげることが期待されています。

さらに、高校においては「学びの場を保障し、これからの時代を生き抜く力を育成する」ために、また、地域においては「地域の活性化」のために、これまで以上に高校と地域が連携・協働することが必要です。

そこで、「通学が著しく困難となる地域の生徒」を対象に、「小規模校でも学校を残すことで、通学への負担を軽減し、学びの場を保障するとともに、学校と地域が連携・協働をし、地域ならではの資源を活用した教育活動を展開する」ため、**地域連携協働校**の指定について検討します。

**地域連携協働校**では、各校の特色ある学びを通して、「地域の将来を担う人材」や「地域社会に積極的に参画する人材」の育成を目指します。

#### 【基本的な考え方】

##### 都市部

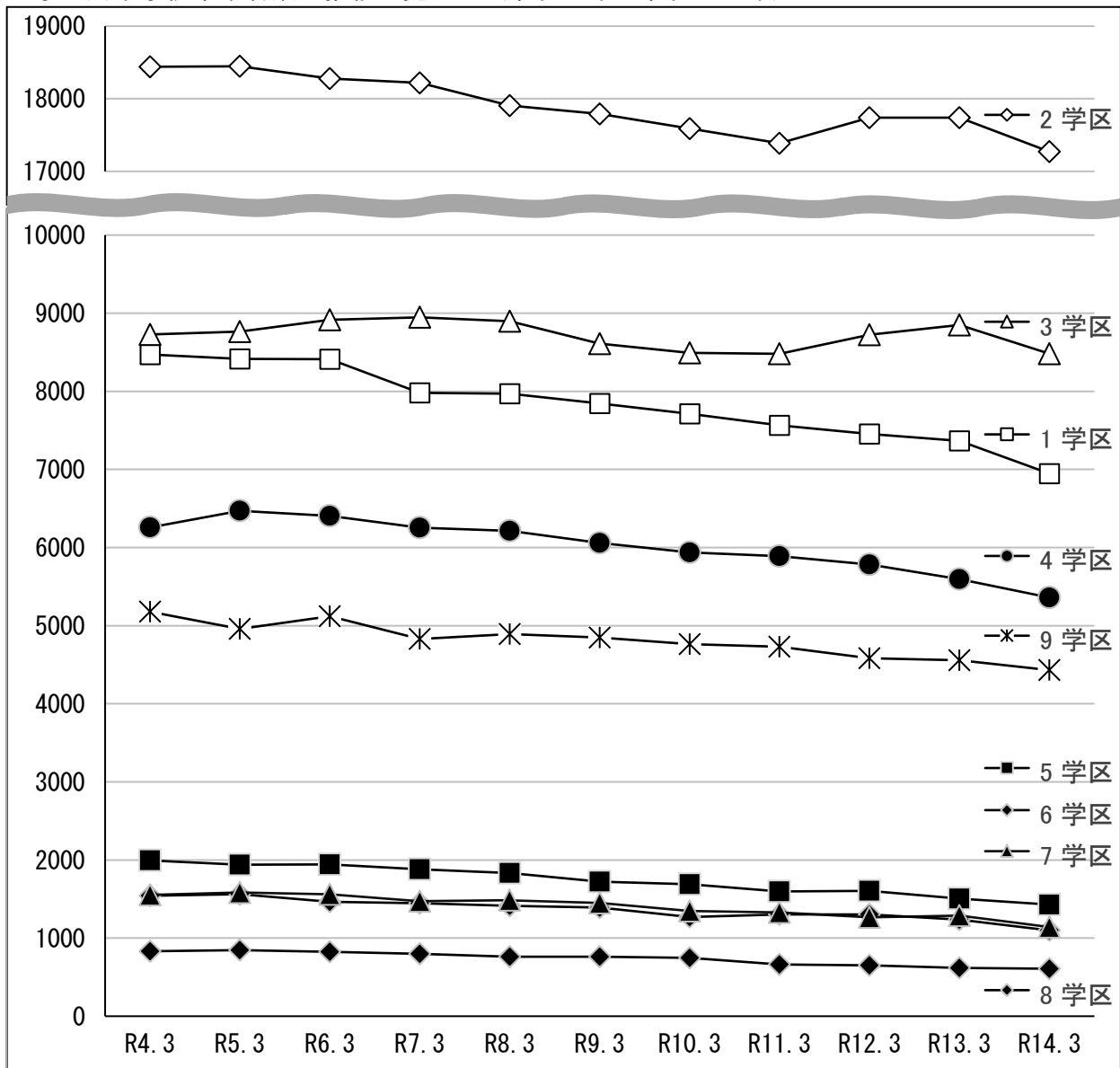
- 適正規模未満の学校や将来適正規模の維持が困難となることが見込まれる学校及び同じタイプの学校が近接している場合には、適正配置を考慮しながら、規模の最適化を図ります。
- 統合に当たっては、地域の実情等を十分に考慮しつつ、対象校がそれぞれ培ってきた伝統や文化、特色ある学び等を継承するとともに、新たな教育内容・方法等を積極的に導入し、様々な特色や個性をもった魅力ある学校を目指します。

##### 郡部

- 統合により通学が著しく困難となる地域であり、かつ地元からの進学率が高い高校を**地域連携協働校**に位置付けます。
- **地域連携協働校**は、学校運営協議会制度を導入するなど、地域の協力・支援を得つつ、地域と一体となり、地域ならではの資源を活用し、「地域の将来を担う人材」や「地域社会に積極的に参画する人材」の育成を目指します。
- **地域連携協働校**の運営体制については、学校運営を円滑に推進するために、必要に応じて、近隣の高校を協力校に指定するなどし、出張授業やICTを活用した授業をはじめ、生徒会交流や部活動の合同実施、教職員の研修など、必要な事項について連携、協力を図ります。
- **地域連携協働校**に指定された高校も含め、生徒募集において著しく困難が生じる場合については、統合も検討します。

《関連データ》

○学区別中学校卒業生数の推移の見込み（令和4年～令和14年）



出典：学校基本調査（文部科学省）及び千葉県年齢別町丁字別人口調査（千葉県総合企画部統計課）を基に教育政策課にて作成

○都市部（1～3学区）で6学級以下、郡部（4～9学区）で4学級以下の全日制高校（1学年）

学級	1学区	2学区	3学区	学級	4学区	5学区	6学区	7学区	8学区	9学区
6	京葉工業 千葉工業 柏井 犢橋	船橋古和釜※1 船橋法典 市川工業 松戸 松戸向陽	沼南高柳 流山北※1 我孫子東	4	八街	小見川 銚子 東総工業	大網	茂原 一宮商業 大多喜 大原	長狭※4 安房拓心 館山総合※4	木更津東 姉崎
5		八千代西 船橋北 浦安※4	鎌ヶ谷西 流山	3	下総※4	多古※4 旭農業	松尾※4 東金商業 九十九里※4			天羽※1 君津青葉 市原 京葉※4 市原緑
4	泉※1	船橋豊富※4 行徳 浦安南	沼南 清水		※1：地域連携アクティブスクール ※2：多部制定時制併置 ※3：連携型中高一貫教育校 ※4：コミュニティ・スクール					
3			関宿※3							
2	生浜※2※4									

（令和5年度第1学年生徒募集定員より）